

父親支援マニュアルを活用した取り組みに関する研究

研究分担者 小崎 恭弘（大阪教育大学健康安全教育系・教授）
高木 悦子（帝京科学大学医療科学部看護学科・教授）

研究要旨

背景・目的：2024 年度にこれまでの父親支援に関する調査研究の成果を駆使して、我が国における初の父親支援マニュアルの作成を行った。本マニュアルは、5 章立て（第 1 章「父親支援に必要な基本事項」第 2 章「父親支援プログラムのポイント」第 3 章「事業構築に向けたアプローチ」第 4 章「母子保健・子育て支援事業の見直しとしての研修の実施」第 5 章「具体的な支援策と実践例」）で全 71 ページからなっている。本研究では、2025 年に完成した父親支援マニュアルを活用した父親支援の取り組みを進めるために、父親支援マニュアルの周知やそれらを活用した研修会やワークショップを行うことを目的とした。

方法：多くの人に広く発信するために、国立成育医療研究センターのホームページに「自治体向け父親支援マニュアル【2024 年度】」のサイトを作成し、誰でもダウンロードし入手できる体制を整えた。当然ではあるが父親支援マニュアルを作成しただけで、父親支援の取り組みが広がるわけではない。これからはこの父親支援マニュアルの積極的な広報を行い、社会のさまざまなレベルにおいての周知を行なっていく必要がある。内容の精査や、これらを活用した研修の効果測定、また具体的にそれぞれの自治体において父親支援の取り組みの契機となるかなどを検証していく必要がある。このような状況を踏まえて、今年度はさまざまな父親支援マニュアルの活用について取り組みを行ってきた。

結果：父親支援マニュアルの周知に向けて、以下の取り組みを行ってきた。

1. 父親支援マニュアルを活用した研修会の実施

全国の自治体や職能団体などからの依頼に応じて、母子保健関係専門職、保育・子育て支援関係者に対して、研修会やワークショップを実施してきた。父親支援マニュアル執筆者全体で、10 件程度を実施することができた。

2. 多様なメディアへの発信やその収集

国立成育医療研究センターからメディアに対してプレスリリースを行い、さまざまなメディアの媒体に取り上げられることとなった。新聞や雑誌など、あるいはそれらの関連オンラインサイトなどで取り上げられ一部活発な議論となり、父親支援マニュアルのダウンロード数が増加した。ダウンロード数は 2025 年 1 月から 3 月末までで 2,643 件、2025 年度は 2,817 件となり、合計で 5,560 件であった。

3. 専門職、学術領域における周知の取り組み

2025 年 12 月 14 日に開催された「第 14 回公衆衛生看護学会」において、父親支援マニュアルを活用したワークショップを開催した。父親支援マニュアルを活用して「これからの父親支援を考えよう～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～」30 名程度の参加があり、活発な議論が交わされた。

考察：今年度は完成した父親支援マニュアルの具体的な活用を目指した取り組みを行ってきた。本マニュアルは父親支援の取り組みを推進するための一つのツールであり、今後このツールを

活用しながら、我が国における父親支援の発展を目指した取り組みを行っていく。また本マニュアルの一応の完成はみたが、より良いものへのアップデートも今後検討していく

研究協力者

阿川 勇太（大阪総合保育大学・講師）

足立 安正（摂南大学・講師）

丸山 佳代（明治安田健康開発財団健康増進
支援センター・保健師）

A. 研究目的

2025 年に完成した父親支援マニュアルを活用した父親支援の取り組みを進めるために、父親支援マニュアルの周知やそれらを活用した研修会やワークショップを行った。具体的にはメディアを活用した父親支援マニュアルの周知と広報である。また自治体や職能団体における、父親支援マニュアルの活用した取り組みを実施した。その取り組みの対象となる参加者への調査より、父親支援マニュアルの有効性やそれらを活用した父親支援の取り組みの効果などについて検証を行った。

B. 研究方法

父親支援マニュアルを社会に発信し浸透させるために、以下の 3 点の取り組みを行った。それぞれの取り組みや研究の方法は以下に示すとおりである。

1. 父親支援マニュアルを活用した研修会の実施

これまで研究班メンバーが依頼を受けてきた父親支援に関する講演会や研修会に際して、積極的に父親支援マニュアルの活用についての話題やそれらを取り入れた内容の取り組みを行った。今年度はメンバー全体で 10 数回の取り組みを行うことができた。また単に研修を行うだけでなく、それらのプログラムの検討や資料の精査を行った。参加者の研修の評価や自由記述などを活用し、父親支援マニュアルのより良い方向性へのアップデートなども検討した。

2. 多様なメディアへの発信やその収集

父親支援マニュアルを広く社会に周知す

るために、さまざまな多様なメディアにおいて発信などの取り組みを行った。国立成育医療研究センターからメディアに対するプレスリリースを行った。（図 3）同時にホームページから誰でもが父親支援マニュアルのダウンロードができるように環境を整えた。またこれらの取り組みが、どのように展開され認識されたなどかについて検証を行った。

3. 専門職、学術領域における周知の取り組み

父親支援マニュアルはその活用をする中心的な対象を、市民生活に最も近い基礎自治体の母子保健領域の専門職員を想定して作成された。そのために専門職への発信や周知が非常に重要であると考えた。そこで専門職、学術関係への発信として、2025年12月14日に開催された「第14回公衆衛生看護学会」において、父親支援マニュアルを活用したワークショップを開催した。父親支援マニュアルを活用して「これからの父親支援を考えよう～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～」というテーマで実施を予定した。このプログラムの実施に向けて、研究チーム内で検討を行い、準備を進め実施を行った。

（図4）

（倫理面への配慮）

本研究のうち、研修会やワークショップで自治体担当者などから収集した情報については、その実施に先立ち、国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施された（課題番号：2023-290）。その他、Web上の情報の収集は個人情報を含まないため倫理的な配慮は要しない。

C. 研究結果

1. 父親支援マニュアルを活用した研修会の実施

表1は「2025年父親支援関係講習会等一覧」である。主に父親支援に関して行った研修会やワークショップの取り組みをまとめた。これらの取り組みから見られた特徴を以下に述べる。

【主催について】

- ・自治体等行政が主体となっているものが見られた。これは父親支援マニュアルが、その対象を基礎自治体における母子保健領域の専門職を想定していることに起因する。しかし同じ行政であっても都道府県の広域行政や、母子保健部署ではなく保育担当部署や生涯学習部署が主催となっている場合も見られた。また行政のみならず、子育て支援団体や、保育関連団体なども主催として名を連ねている。

- ・母子保健関係者対象のものと子育て支援関係者対象のもの、その両方が見られる。また参加者においても、母子保健領域主催のものであっても、子育て支援関係者の参加や、また反対の場合も見られた。

【内容について】

- ・基本的には母子保健、子育て支援の支援者向けの研修会での開催が多い。

- ・テーマとして当然ながら「父親」を支援の対象としたものであるが、父親支援の現場の理解を求めるものと、積極的に父親支援の具体的な取り組みや方法を求めるものに二分することができた。

- ・実施の方法は対面やオンラインと多様な取り組みの方法が検討されている。また一部ではあるが、オンラインなどの撮影を行い、後日動画研修としての配信を行っているところもあった。

図1は、5月に実施した「埼玉県社会教育・家庭教育支援主催 埼玉県家庭教育アドバイザー研修会」において、テーマ「多様化する社会で必要な父親支援」にて参加いただいた150名からの自由記述アンケートの結果を、テキストマイニングとしてまとめたものである。図2はそれらの自由記述の内容についてAI(テキストマイニングによるChatGPT)

を活用して、まとめたものである。

全体的に肯定的な意見や感想が多く見られるのがわかる。本研修会は、子育て支援関係者が対象であり母子保健領域とは異なるものであるが、特に動詞(赤色)の単語が「関わる、育てる、感じる、育つ、学ぶ、増える、笑う」など、講演者が父親支援において大切にしている内容のキーワードが多く見られ、研修会の意義や伝えたいメッセージとの整合性が見てとれた。そしてまとめの部分に表出されている5つの項目(「1.父親の育児参加の重要性」、「2.社会の変化と意識改革」、「3.育児支援の必要性」、「4.多様性の尊重」、「5.未来への希望」)は、父親支援に取り組む場合の重要な視点であると考ええる。

父親支援を大きく子育て支援の発展と位置付けた場合、その関係性が意識されており、また現場の父親の置かれている環境の理解からこれからの未来思考の視点が含まれており、父親支援がこれからの子育て支援における変革の一つの兆しであることが確認された。また社会全体の変化を踏まえた上で「父親の育児」を多様性の文脈で捉えられていることは、ダイバーシティが求められている現代社会、そしてその変化が子育ての場にまで波及していることの一つの証左であると考ええる。

2.多様なメディアへの発信やその収集

国立成育医療研究センターからのメディアに対するプレスリリース以降、さまざまな媒体で父親支援マニュアルについての報道や取り組みの紹介がなされた。新聞、雑誌、テレビ、インターネットの主要メディアでの発信があった。またその他のSNSや個人のブログなどにおいても、注目を浴び多くの市民の目に触れ、関心を持たれることになった。マニュアルのダウンロード数は2025年1月から3月末までで2,643件、2025年度は2,817件となり、公表後からの合計で5,560件であった。

その一つの証左として、インターネット関

連サイトの代表的なものをまとめた。表2「父親支援マニュアル掲載一覧表」である。インターネット上には、さまざまな形で「父親支援マニュアル」についての記載や感想が存在している。個人的なものであったり、記載内容が正確でなかったりするものも当然多く存在している。そのような状況を踏まえて、今回の記載しているものは、基本的に企業や職能団体、また明確な意図を持ってサイトの運営を行っており現段階で確認できるものを一覧とした。これらの特徴について述べる。

【媒体】

- ・基本的に新聞社が配信しているネットニュースサイトの記載が多く見られた。確認できたものの上位だけの記載であるが、これ以外においても多く見られる。また現在は閲覧ができないものであっても、当時はより多くのニュースサイトでの掲載があった。これらが記事として採択されることは、それだけニュースバリューとして父親支援マニュアルが社会的に印象深いものであったと言える。

- ・またそれ以外では、母子保健や医療などに関するサイトでの掲載、また子育ての雑誌の記事掲載などが見られた。社会的な関心もさることながら、直接父親支援に関わる、母子保健や医療、子育てなどの関心があることがわかる。

【内容】

- ・掲載の内容は、大きく二つの方向性が見られた。一つは「父親支援マニュアル」自体に対する着目である。それも「初の手引き」などが見られるように、我が国における初めての取り組みであるという点が、大きく捉えられていた。ニュースのバリューとして、初めてのものであったり、社会の変革にいち早く対応するものを取り扱う傾向にあり、まさに父親支援マニュアルがその点に合致している。そしてもう一つは見出しに多く見られるように「父親の産後うつ」というキーワードへの高い関心である。こちらもこれまで「産

後うつ」という言葉自体が女性特有のものであり、その対応や防止に対して女性のみ視点でしか語られていなかったこれまでの常識を覆したことが社会の耳目を集めた。

- ・また一部ではあるが「男性の産後うつ」に関して、否定的な意見や疑問を呈するような扱いも見られた。これらはこれまでの社会に存在しない、新しい価値の創造に対するアンチテーゼである。もちろんこれは学術的なデータに基づく研究結果や内容であり、研究として何ら問題はない。しかし一方でこれまでの母子保健領域や女性特有の課題として捉えられていた「産後うつ」に対する、突然の価値観の変革に対する過度な反応であったように考える。このような賛否が分かれるような世論も含めて、研究の中から新しい知見や、それに基づく取り組みの創造がより一層重要であると考えられる。

3.専門職、学術領域における周知の取り組み

「第14回公衆衛生看護学会」において、父親支援マニュアルを活用したワークショップを開催した。父親支援マニュアルを活用して「これからの父親支援を考えよう～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～」というテーマを設定した。以下は、当日の企画内容また当日の実施プログラムの内容である。

○WS企画書（【趣旨】【内容】）

【テーマ】父親支援マニュアルを活用して、これからの父親支援を考えよう
～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～

【趣旨】

わが国において父親の育児参画が推進され、父親が育児をする姿も確かに増えてきた。その中で、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を提供する仕組みの全国展開が進められ、その支援の対象に父親も含まれた。しかし、自治体は父親支援の必要性を認めているが、その普及・実装が課題とされている。このような状況の中で、こども家庭科学研究

費助成を受けた当研究班では、父親への育児支援に特化したエビデンスを積み重ねつつ、自治体での支援体制やニーズを調査し、「父親支援マニュアル」を作成した。実際に活用いただいている自治体からの問い合わせが増加するに伴い、より広く父親支援マニュアルと活用した自治体での父親支援の展開に繋げていくために、本マニュアルに関する理解や議論を推進していく必要がある。

本ワークショップでは、本年発表した父親支援マニュアルについて解説し、それらを活用しながら自治体でどのような支援を実施していくことができるのかを事例を交えながら考える機会としたい。また、父親支援を含めた事業評価等での教育機関との連携についても議論できる機会としたい。

【開催日時】

12月14日（日）14:30～15:50（ワークショップC-7@本館3F第3研修室＜C会場＞）

【内容】全体で80分（準備片付け含む：前後5分）

本ワークショップでは、以下の内容でこども家庭科研の父親支援研究班で作成した「父親支援マニュアル」の解説と、それを活用してどのような父親支援ができそうかを考える。

1. 「父親支援マニュアル」の内容の説明及び活用事例（20分）

- ワークショップの目的・内容（5分：阿川）
- 「父親支援マニュアル」の全体像と第1・2章の説明（5分：阿川）
- 第3・4章の説明（5分：足立）
- 第5章の説明（5分：丸山）

2. 自治体における父親支援の検討～今までとこれから～（30分）全員でファシリテート

- 進め方の説明（5分：阿川）
- * グループごとに検討する母子保健関連事業〔母子健康手帳交付・両親学級・乳児家庭全戸訪問・乳幼児健診・乳児相談など〕
- ワークシートの説明（5分：足立）
- * 保健事業を振り返り、その事業内にどうすれば父親支援を盛り込めるのかを考える

るワークシートを作成し、そのシートの紹介と説明を行う。研究者（教員）についても、現行の母子保健事業の乳幼児健診や家庭訪問等を想定し記入する。

- ワークシートの記入（5分）
 - 自己紹介（氏名、所属、職種、誕生日：ファシリとワールドカフェで残る人を決定）（5分）
 - グループ内での共有（15分）
 - 各メンバーがグループ内で発表し、ワールドカフェで残る人は発表・説明できるよう簡単なメモ・記録をとっておく。
- #### 3. 全体共有〔ワールドカフェ〕（10分）全員
- 全体への説明（阿川）
 - 1名をグループに残して、他のメンバーは移動（1分）
 - 各グループ内で発表・説明（3分）
 - 1名をグループに残して、他のメンバーは移動（1分）
 - 元のグループ内に戻って報告・共有（4分）
- #### 4. まとめ（5分：阿川）

【設定】

グループ検討の後、ワールドカフェ形式で共有するため、予め実践者（保健師・助産師・保育士等）と研究者（教員）の混成グループになるよう座席配置を工夫する。

当日は30数名の参加を得て、全国のさまざまな父親支援の取り組みについて報告や実践事例の話があった。また父親支援の取り組みの難しさや父親へのアプローチの工夫などの話もあり、大変有意義な会となった。当日使用した資料とワークシートを添付しておく。（図4）

D. 考察

父親支援マニュアルの完成後の対応として、社会的な発信による周知と、より実践的で試行的な活用の取り組みを行ってきた。これらの取り組みを行った結果から、以下の3点について検討が必要であると考え。

1. 父親支援マニュアルの実践的活用の取り組みの検討

完成を見た父親支援マニュアルであるが、今年度さまざまな研修やワークショップでの活用を行ってきた。そしてそこでの活用についてある程度の手応えを感じている。この内容は基礎自治体の母子保健関係者を中心としながらも、行政担当者、子育て支援者にも広く活用できる部分も多くある。また父親支援全体の理論的な枠組みや内容もあり、さまざまな視点からの活用が期待できる。その一方で母子保健の専門的な用語や概念などがあり、すべての人がダイレクトに活用できない部分も存在する。明確な対象者を想定して作成を行った中で、その対象者の活用に関してはある程度の目的は達せられたように感じた。しかし父親支援は母子保健領域のみで完結するものではなく、さまざまな領域や現場での活動が多角的になされる中で、多くの父親を支援することとなる。そのように考えると、父親支援マニュアルを今後どのように実践レベルに落とし込んでいくのか、またより支援者が活用しやすいものとするのかの検討や取り組みが必要になる。

その一つは父親支援マニュアルに対する関心をより高め、より積極的にこれらの発信が必要であると考え。それと同時にこの父親支援マニュアルの具体的な活用方法を、伝えていく人的なリソースの構築も検討していくことが求められる。現在研究班の数名のメンバーのみが、父親支援マニュアルなどを活用した研修会やワークショップを実施している。それらの取り組みを具現化していく、父親支援マニュアルにある「研修の進め方」などに、多くの支援者を巻き込んでいき父親支援の支援者養成を視野に入れていきたい。

2. 父親支援マニュアルから父親支援活性化のロードマップの作成

父親支援マニュアル作成の最終的な目的は、我が国における父親支援の活性化とその枠組みの成立である。その一つのツールや手段としてこのマニュアルは存在する。その目

的の達成のためには、父親支援が日本の多くの自治体やさまざまな組織などにより、積極的に行われる環境が必要となる。現在意識のある自治体や、一部の断端やNPOなどによる取り組みは散見されるが、それらが全国的そして普遍的なものとはなっていない。そのような目指す姿を意識した場合、それらに向けての明確なロードマップと計画が必要になる。

父親支援マニュアルはその目指すべき姿の一つのロードマップであり、これらの活用や取り組みが我が国の父親支援の歩みを大きく進める可能性を秘めている。そのためにはまずはこの父親支援マニュアルの全国的な普及と、それらに基づく計画、実践、検証などの取り組みの数を増やしていくことが必要となる。そのためにも父親支援マニュアルの有用性や現場サイドの利用実績の構築が求められる。父親支援マニュアルを活用してそこから生まれる父親支援の様々な取り組みの事例や、効果測定などを研究として取り組み、より高いレベルでのエビデンスの構築を今後目指していく。

3. 父親支援マニュアルの今後のアップデートのあり方の検討

父親支援マニュアルは一応の完成は見たが、これらの効果やその使い勝手などについてはまだ未知数のものである。その点を鑑み、今後より使いやすく意義のあるものへとアップデートを検討したい。その方向性は大きく3点あると考える。

(1) 実践的な具体的な事例の提示

本マニュアルはこれまでの研究の知見にも基づき作成をした。その中において、全国のような先駆的な父親支援の取り組みや父親支援のプログラムの内容を記載している。しかし社会には日々新しい取り組みや、仕組みや考え方が多く存在し、発展している。父親を取り巻く環境が大きく変化していく中で、父親支援の取り組みも全国では、また海外を含めて様々な発展していると考え。同

時に父親支援に関わる支援者の努力や鋭意工夫なども、日進月歩の状況である。そのような最新の取り組みや先駆的な視点などを積極的に取り入れ、社会全体で共有していきたいと考える。

(2) データの蓄積などによるエビデンスベースの信頼性の担保

父親支援マニュアルの活用に関して、今年度は試行的な取り組みを行ってきた。統一された研修プログラムや教材などが作られたわけではない。今後はこのマニュアルの有用性や、これらを活用した研修のプログラムなどの枠組みの構築が求められる。それらは研究の一環として、この父親支援マニュアルの効果測定を行い、さらに信頼性と妥当性を明らかにしていきたい。そして最終的に父親支援マニュアルの活用が、自治体や様々な組織などにおいての父親支援プログラムなどの活性化に、どのように貢献できるかを明らかにしたいと考える。

(3) 社会的な最新の動向や父親支援の方向性の提示

父親支援自体の取り組み自体が近年着目を浴びたものであり、社会全体に浸透していると言いき難い状況下にある。男性の育児休業率が40%を超える状況や、厚生労働省のイクメンプロジェクトが終了し「共育プロジェクト」が始まることなど、父親を取り巻く環境も日々変化し続けている。このような時代や社会の変化の状況を父親支援マニュアルにおいても敏感に察知し、その理念や内容などにおいても最新の動向を意識したものとしたい。家族や子育てを踏まえた父親支援に関して、絶対的な正解や到達すべき数値が存在するわけではない。「父親が育児の主体として、自分の人生のWellbeingを高める」ということを大きな柱として、この父親支援の取り組みを進めている。しかし父親一人一人に応じて、Wellbeingの捉え方や価値観は全て異なる。それらの多様性を前提としながらも、時代の変化や社会の最新の動向を大切にしたい父親支援に取り組みたい。それは単なる流

行や流行り廃りにいちいち反応するという瑣末なことではなく、父親自身のWellbeingの本質を変化の中で捉えるということである。

E. 結論

昨年度完成した父親支援マニュアルの社会的な周知と、本マニュアルを活用した父親支援の取り組みを行なってきた。メディアの活用や職能団体、学会などを通じての発信をある程度行うことはできた。また具体的な父親支援マニュアルを活用して、研修会なども開催し、これらの活用について一定の成果を上げることができた。

しかし父親支援マニュアルを活用した取り組みは、まだ始まったばかりである。今後はこれらを基にしたより確実なデータなどを収集し、父親支援の取り組みをさらに良いものにしていくことが必要である。そのためにも父親支援マニュアルが多く組織や機関、そして父親支援に関わる人に多く利用される環境づくりを行っていく。

謝辞

父親支援マニュアルの作成、そして活用の際し、さまざまな自治体、団体の協力を得た。また父親支援に関する調査やアンケートにご協力いただいた、多くの方々に感謝申し上げます。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

- 1) 高木悦子, 小崎恭弘, 阿川勇太, 足立安正, 丸山佳代, 竹原健二. わが国の父親への育児支援状況の概要 — 全国自治体への縦断調査と企業への調査結果より —. 第72回小児保健学学会(金沢). 2025.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

- 2. 実用新案登録 なし
- 3. その他 なし

表 1. 2025 年父親支援関係講習会等一覧

No	日付	主催者	テーマ	方 法	内 容
	時間	活動名	対 象	参加人数	
1	5月13日	埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課	「多様化する社会で必要な『父親支援』」	オンライン	子育て支援における父親支援について
	90分	埼玉県家庭教育アドバイザー研修会	埼玉県内の子育て支援関係者	150名	
2	6月27日	横浜女子短期大学	父親支援を考える	対面 横浜市	保育者のキャリアアップ研修内の保護者支援において、父親支援の講義
	90分	神奈川県保育者キャリアアップ研修 保護者支援	神奈川県内の保育関係者	300名	
3	10月1日	千葉県習志野保健所 地域保健課 母子保健担当	父親支援を考えよう～みんなを支える支援者になるために～	オンライン	母子保健領域における父親支援のあり方
	120分	習志野保健所母子保健従事者研修会	習志野市内の母子保健関係者	60名	
4	10月19日	広島こども夢財団	父親の子育ての現状と父親支援の今～私の価値観の見直し	対面 広島市	子育て支援における父親支援の取り組みと実際のプログラム検討
	180分	子ども・子育て支援セミナー	広島県内の子育て支援関係者	30名	
5	11月18日	足立区江北保健センター	対応困難な保護者への支援（父親の困難事例も含む）	対面 足立区	父親を含めた支援のあり方の研修会
	90分	地域保健係江北子育てネットワーク連絡会	足立区内の母子保健関係者	30名	
6	12月9日	枚方市役所こども未来部私立保育幼稚園課	父親支援を考える	対面 枚方市	保育施設における子育て支援研修会
	90分	保育・子育て支援研修会	枚方市内の保育、子育て支援関係者	100名	
7	1月15日	枚方市役所こども未来部私立保育幼稚園課	絵本を通じて父親支援を考える	対面 枚方市	絵本を活用した父親支援の研修会
	90分	子育て支援研修会	市内の読み聞かせ活動の支援者	15名	
8	3月5日	母子衛生研究会	今、求められている父親支援を考える	対面 東大阪市	母子保健関係者向けの父親支援研修会
	60分	母子保健指導者研修会	大阪府内の母子保健関係者	300名	

[illegible]

1.父親の育児参加の重要性

講演では「笑っている父親」を増やすことが強調され、父親が育児に積極的に参加することで、母親の負担が軽減され、子どもにも良い影響を与えるとされています。「親が笑っていると、笑える子が育つ」という考え方が印象的でした。

2.社会の変化と意識改革

参加者は、父親支援が必要であることを再認識し、昭和の古い考え方をアップデートする必要性を感じています。男女の役割分担に関する意識改革が求められ、父親が育児に参加することが当たり前の社会を目指すべきだと述べられています。

3.育児支援の必要性

講演を通じて、父親の育児参加が母親の孤独感を軽減し、家庭全体の幸福につながるということが強調されています。父親支援の重要性を理解し、実践することが求められています。

4多様性の尊重

子育てにおいては、性別に関わらず親としての理解と協力が重要であることが強調され、父親と母親が共に育児に関わることが幸せにつながるとされています。

5.未来への希望

参加者は、父親の育児参加が進むことで、未来の子どもたちがより良い環境で育つことを願っています。また、父親支援が社会全体の変革につながる可能性を感じており、今後の活動に活かしたいと考えています。

図 3. 父親支援マニュアルのプレスリリース

報道関係者各位

2025 年 1 月 30 日

国立成育医療研究センター

日本初・自治体向け父親支援マニュアルを公開
～「父親の産後うつ」や孤立を防ぎ、幸せな子育て期の実現を目指して～

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区大蔵、理事長：五十嵐隆）政策科学研究部の竹原健二部長らは、こども家庭庁の研究班の活動として、自治体による父親支援の拡充を目指して、支援者向けのマニュアルを作成・公開しました。本マニュアルの作成は、こども家庭科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業の「父親の子育て支援推進のためのプログラムの確立に向けた研究」の一環として実施されました。

このマニュアルは、これまでに研究班の活動を通じて、多くの自治体の父親支援事業の伴走や相談対応、支援者の養成研修を担当してきた経験を活かして、主に自治体の職員を対象に、父親支援が多くの自治体・地域に広まることを目指して作成されました。マニュアルの内容は、「父親支援に必要な基本事項」、「父親支援プログラムのポイント」、「事業構築に向けたアプローチ」、「母子保健・子育て支援事業の見直しとしての研修の実施」、「具体的な支援策と実践例」の 5 つの章から構成されており、ポピュレーションアプローチ¹としての父親支援のあり方の紹介などをまとめています。このマニュアルをきっかけに、自治体における父親支援の仕組みづくりやその検討が始まり、好事例の横展開などを通じて、少しでも多くの自治体でさまざまな機会に、さまざまな支援サービスを通じて父親への支援がおこなわれることと、その支援を受けて父親とその家族が妊娠期から子育て期を楽しく充実したものにできるようになることを目指しています。

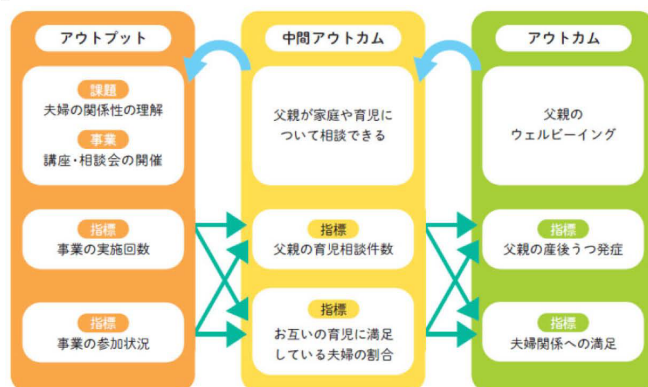


【図 1：父親支援マニュアルのイメージ（一部）】

¹ ポピュレーションアプローチとは、集団の一部だけではなく、集団全体に対して働きかけることで、全体としての健康状態の向上や予防策の推進につなげる取り組みのこと。

【マニュアルのポイント】

- 父親支援の必要性やその方法を解説した日本で初めてのマニュアルです。「父親の産後うつ」などをきっかけに高まっている、父親支援の必要性について、その意義や必要性、社会的な背景、関連する法律などの全体像を理解することができます。
- 自治体での父親支援の新規事業の構築に向けて、計画立案やロジックモデルの考え方、事業計画書の作成方法や事業評価の考え方を概観することができます。
- 父親支援というと、父親を含めたイベントや教室のような新しい事業・プログラムが想定されがちですが、既存の母子保健事業や子育て支援事業に追加する形で、すべての父親を対象にした取り組みの実施が可能となります。
- 父親支援事業の実施に向けて、例えば NPO との協働や、父親が記入する場合を考慮した乳幼児健診問診票の文言修正対応例など、さまざまな種類・方法の支援があることを知るとともに、各自治体で実施されている父親支援事業の実例を見ながら学ぶことができます。



【図 2：ロジックモデルを用いた父親支援を目的とした新規事業の検討例】

構成	時間	テーマ	内容	資料など
導入	5分	目的・目標の確認	研修の目的・目標の説明	スライド
	10分	前提の共有	成育基本法の説明 本市における父親の育児の実態	配布資料
展開	10分	現状の把握	父親にアプローチする機会・接点 (シンクベアシェア：自己紹介を兼ねる)	ワークシート 1
	10分	課題の把握	現状の支援内容や改善すべき課題 (シンクベアシェア)	ワークシート 2
	10分	優先順位の検討	取り組むべき課題の優先順位の検討 (グループディスカッション)	ワークシート 2
	30分	改善策の検討	課題に対する改善策の検討 (シンクベアシェア)	ワークシート 3
まとめ	5分	振り返り	グループで出された意見のまとめ (グループディスカッション)	配布資料
	10分	全体での共有	グループ内でまとめた意見の発表	ホワイトボード

【図 3：職員向け研修のスケジュール例】

【背景・目的】

2010 年の「イクメンブーム」をきっかけの一つに、日本では父親も家事・育児をするのが当たり前の社会になってきました。2021 年に閣議決定された成育基本法の基本方針においても、成育医療等の現状と課題の一つとして、“父親の孤立”が掲げられ、『父親についても、支援される立場にあり、父親も含めて出産や育児に関する相談支援の対象とするなど、父親の孤立を防ぐ対策を講ずることが急務である。』と記されました。

しかし、この研究班で実施した自治体を対象とする調査では、父親を主たる対象とする父親支援事業を実施している自治体は 2019 年度、2022 年度でそれぞれ 6.5%、10.2%に留まっていることが明らかにされています。一方で、そうした父親支援事業を実施していない自治体のうち、75%の自治体は父親支援事業の必要性を実感していることも示されており、父親の支援ニーズが分からないことや、業務が多忙でなかなか手が回らないこと、財源の確保が難しいこと、具体的な支援方法が分からないことなどが、父親支援を実施していく上での障壁になっています。そこで、父親支援事業を担当したことのない自治体および担当者が一から事業を立ち上げていく際のヒントとなるよう、今回の父親支援マニュアルを作成いたしました。今後も、各自治体で試みられるポピュレーションアプローチとしての父親支援の情報を集め、より多くの情報を届けていけるようにしていきたいと考えています。

【マニュアル概要】

名称：「父親支援マニュアル」

入手先：

<https://www.ncchd.go.jp/scholar/research/section/policy/project/papa.html>

執筆・編集者：

阿川勇太：大阪総合保育大学児童保育学部

足立安正：摂南大学看護学部

小崎恭弘：大阪教育大学教育学部

高木悦子：帝京科学大学医療科学部看護学科

竹原健二：国立成育医療研究センター政策科学研究部

丸山佳代：東京科学大学大学院保健衛生学研究科

【問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 企画戦略局 広報企画室 神田・村上
電話：03-3416-0181（代表） E-mail:koho@ncchd.go.jp

表 2. 父親支援マニュアル掲載一覧表（インターネットサイト関連）

No	媒 体	媒体種別	掲載日	見出し
1	東京中日スポーツ	新聞サイト	2025.3.18.	「父親の産後うつ」が炎上？ 渦中の『父親支援マニュアル』に、該当ワードは“なし” なぜ誤解が…？ https://www.chunichi.co.jp/article/1039967
2	産経新聞 ネットニュース	新聞サイト	2025.3.15.	父親「産後うつ」支援を 国の研究班が初のマニュアル公開 不慣れな育児、悩みに対応 https://www.sankei.com/article/20250315-3P5TWNK47RNVJJAKDESG26VYHE/
3	日本経済新聞 ネットニュース	新聞サイト	2025.3.18.	育児悩む父親に手引書 国の研究班、うつのリスク対応 https://www.nikkei.com/article/DGKKZO87419590Y5A310C2CE0000/
4	デーリー東北	新聞サイト	2025.3.15.	父親「産後うつ」支援を 国の研究班、初の手引き https://www.daily-tohoku.news/archives/302851
5	静岡新聞 ネットニュース	新聞サイト	2025.3.15.	父親「産後うつ」支援を 国の研究班、初の手引き https://news.at-s.com/article/1675059
6	福井新聞 ネットニュース	新聞サイト	2025.3.21.	父親の「産後うつ」サポート https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/2267605
7	沖縄タイムズ ネットニュース	新聞サイト	2025.4.2.	「産後うつ」支援 父親も必要 国の研究班がマニュアル 不慣れな育児 悩みに対応 https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1556240
8	AERA Kids	出版社サイト	2025.6.20	産後の「父親」を支援するマニュアルを国の研究班がつくったのはなぜ？ https://dot.asahi.com/aerakids/articles/-/258489
9	日本産後ケア協会	関連団体	2025.3.11.	産後の父親支援のために「父親支援マニュアル」を公表 https://sango-care.jp/news/news-5984/
10	ウーマンズLABO	関連情報関係	2025.2.3.	日本初、「父親の産後うつ」を防ぐ自治体向けの父親支援マニュアル https://womanslabo.com/news-women-250203-2
11	ハナソネ	関連情報関係	2025.6.17.	ニーズ高まる父親支援 自治体向けに初の手引き #父親の産後うつ https://hanasone.mainichi.jp/articles/20250610/wom/00m/401/001000c
12	coki	関連情報関係	2025.3.16.	「子どもは愛おしい、でも…」 育児と仕事のはざまで悩む父親たち https://coki.jp/article/news/49719/#google_vignette

図 4. 「これからの父親支援を考えよう～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～」資料

第14回公衆衛生看護学会 ワークショップ
C-7

父親支援マニュアルを活用して、これからの父親支援を考えよう
～自治体での活用及び教育機関との連携を見据えて～

筆頭世話人：阿川勇太（大阪総合保育大学 児童保育学部）
世話人：竹原健二（国立成育医療研究センター 政策科学研究部）
高木悦子（帝京科学大学 医療科学部）
足立安正（摂南大学 看護学部）
小崎恭弘（大阪教育大学 教育学部）
丸山佳代（一般財団法人明治安田健康開発財団健康増進支援センター）

1

本ワークショップの内容

1. 「父親支援マニュアル」の内容の説明及び活用事例
2. 自治体における父親支援の検討～今までとこれから～
進め方の説明
ワークシートの説明と記入
グループ内での共有
3. 全体共有【ワールドカフェ】
4. まとめ

本ワークショップにおいて
開示すべき利益相反はありません

2

本ワークショップ開催にあたってのお願い

- ① スライドの撮影はご遠慮ください。
- ② 本ワークショップで皆さんと取り組んだ成果を報告することを予定しております。その際にみなさんのワークシートの内容を分析した結果も報告させて頂きたいと考えております。ワークシートの下部に同意欄がありますので、同意いただける場合は「同意する」に丸をつけて頂き、最後に提出をお願いいたします。

3

本ワークショップ開催の趣旨

- ・ 妊娠期からの切れ目ない支援を提供する仕組みの全国展開が進められ、その支援の対象に父親も含まれた。しかし、自治体は父親支援の必要性を認めているが、その普及・実装が課題とされている。
- ・ このような状況の中で、こども家庭科学研究費助成を受けた当研究班では、父親への育児支援に特化したエビデンスを積み重ねつつ、自治体での支援体制やニーズを調査し、「父親支援マニュアル」を作成した。実際に活用いただいている自治体からの問い合わせが増加するに伴い、より広く父親支援マニュアルと活用した自治体での父親支援の展開に繋げていくために、本マニュアルに関する理解や議論を推進していく必要がある。

➡ 本年発表した父親支援マニュアルについて解説し、それらを活用しながら自治体でどのような支援を実施していくことができるのかを事例を交えながら考える機会としたい。また、父親支援を含めた事業評価等での教育機関との連携についても議論できる機会としたい。

4

「父親支援マニュアル」 内容の説明及び活用事例

5

父親支援マニュアル 全体像

1. 作成の背景

- ・ 少子化・育児不安・父親の孤立など、父親支援の必要性が急増。
- ・ 従来の母子中心支援から「家族全体を支える支援」へ転換する必要性。
- ・ 自治体が父親支援を計画し、実施できる“初の体系的ガイド”として作成。

2. マニュアルの目的

- ・ 自治体が父親支援を政策的・実務的に進めるための標準的枠組みを提供。
- ・ 支援者（保健師・保育士・子育て支援員など）が父親を理解しやすくする。
- ・ 各地域での父親支援プログラムの構築と質の保証。

3. 構成（5章）

- ・ 第1章：父親支援の基本事項（背景・エビデンス・制度）
- ・ 第2章：父親支援プログラムのポイント（父の心理・特性・支援視点）
- ・ 第3章：事業構築アプローチ（既存事業の見直し、企画方法）
- ・ 第4章：支援者研修の実施（研修設計・支援者の意識改革）
- ・ 第5章：具体的支援策と実践例（自治体の取り組みモデル）

6

父親支援マニュアル 第1章の概要

1. 父親支援が求められる社会背景

- ・ 父親の育児参加は増加傾向だが、心理的負担や孤立感は依然大きい。
- ・ 父親の産後うつ、育児ストレス、長時間労働による育児困難の増加。
- ・ 家族形態の多様化に対応した支援体制の必要性。

2. 父親支援の意義（エビデンス）

- ・ 父親の育児参加は、子どもの発達（情緒・認知・社会性）に良好な影響。
- ・ 夫婦関係の満足度向上・母親の育児負担軽減につながる。
- ・ 「父親のウェルビーイング向上」が、結果的に家族全体の資源を増やす。

7

父親支援マニュアル 第1章の概要

3. 制度的な位置づけ

- ・ 児童福祉法、母子保健法、男女共同参画の推進計画、支援センター事業など。
- ・ 国の施策にも「父親を含む家族支援」が明確化。
- ・ 自治体事業の企画において父親を対象とした施策が必須に。

4. 父親の特徴・支援の前提理解

- ・ 情報不足・孤立・役割期待の不明確さが課題。
- ・ 支援者が「父親は支援対象である」認識を持つことが第一歩。

8

父親支援マニュアル 第2章の概要

1. 父親の特性とニーズ

- 父親は「相談のハードルが高い」傾向。
- ピアサポート（父同士のつながり）が効果的。
- 産前・産後でニーズが変化する（不安／関わり方／夫婦関係 etc.）。

2. 効果的な支援設計の視点

- “父親が来やすい環境づくり”が鍵
例：時間帯、声かけ、テーマ設定、参加しやすい雰囲気
- 情報提供はシンプル・実践的に
例：抱っこ・あやし方・遊び方・夫婦コミュニケーション
- 家族全体支援としての視点（母親・祖父母との協働支援）

9

父親支援マニュアル 第2章の概要

3. 父親のウェルビーイング支援

- 心理的余裕を育む（負担、孤立の軽減）
- 「父親としての自信」を形成するアプローチ
- 育児参加が“楽しさ”として実感される経験を提供

4. 自治体でのプログラム実施のポイント

- 既存の母子保健事業に父親視点を付加する
- 実施者（保健師・支援員）の意識改革
- 地域資源（NPO・父親支援団体）との連携が成果を高める

10

父親支援マニュアル 第3章の概要

■ 事業構築の考え方

既存事業の見直しと活用
新規事業の構築

■ 事業構築のプロセス

事業の位置づけを確認する
実施すべき取り組みを探る
事業計画書を作成する
事業化に係るリソースを得る

11

父親支援マニュアル 第3章の概要

■ 事業構築の考え方

既存事業の見直しと活用
新規事業の構築

	母子健康手帳交付		妊娠期の両親学級など		乳幼児健康診査		家庭訪問	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
父親の参加奨励	—	—	395 (65.2)	—	—	—	—	—
父親が同行しやすい体制・環境づくり	197 (32.5)	—	304 (50.2)	172 (28.4)	177 (29.2)	—	—	—
父親向けのリーフレットやパンフレット	274 (45.2)	—	143 (23.6)	22 (3.6)	41 (6.8)	—	—	—
父子手帳交付	113 (18.6)	—	—	—	—	—	—	—
父親向けの内容・講話の実施	—	—	278 (45.9)	4 (0.7)	—	—	—	—
父親の生活や労働などの情報収集	344 (56.8)	—	—	162 (26.7)	192 (31.7)	—	—	—
父親の健康状態などのアセスメント	139 (22.9)	—	26 (4.3)	329 (54.3)	383 (63.2)	—	—	—
父親に対する聞き取りや相談・指導の実施	—	—	—	99 (16.3)	107 (17.7)	—	—	—
その他	32 (5.3)	—	38 (6.3)	13 (2.1)	9 (1.5)	—	—	—
特に実施していない	88 (14.5)	—	129 (21.3)	161 (26.6)	127 (21.0)	—	—	—

12

父親支援マニュアル 第3章の概要

■ 事業構築の考え方

既存事業の見直しと活用

新規事業の構築

■ 事業構築のプロセス

事業の位置づけを確認する

実施すべき取り組みを探る

事業計画書を作成する

事業化に係るリソースを得る

図3-3 ロジックモデルを用いた父親支援を目的とした新規事業の検討例



13

父親支援マニュアル 第3章の概要

■ 事業構築の考え方

既存事業の見直しと活用

新規事業の構築

■ 事業構築のプロセス

事業の位置づけを確認する

実施すべき取り組みを探る

事業計画書を作成する

事業化に係るリソースを得る

表3-1 事業計画書の例

項目	記載事項
事業名	例) パパのための子育て悩み相談会 など
実施に係る根拠および背景	法的根拠 / 自治体の方針や計画 / 地域の課題や対象者のニーズ、実態など
目的 / 目標	中間アウトカムを踏まえて設定
事業の内容	対象 / 実施時期・回数・頻度 / 場所 / 実施方法、必要物品 / 担当・関連部署や機関、職種、人員(実施・非実施の区分)
周知方法	広報誌/ホームページ/個別通知 など
予算	費目、予算要求額(単価×数量) / 自己負担の有無 / 財源
評価指標	ストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカム

14

父親支援マニュアル 第4章の概要

■ ポピュレーションアプローチの視点からの父親支援の意義

プログラム実施だけが父親支援なのか

既存事業を上手に活用する

■ 父親支援に関する研修

研修の概要

研修の前提と企画

研修の実施と評価

研修の資料

父親支援マニュアル 第4章の概要

■ ポピュレーションアプローチの視点からの父親支援の意義

プログラム実施だけが父親支援なのか

既存事業を上手に活用する

■ 父親支援に関する研修

研修の概要

研修の前提と企画

研修の実施と評価

研修の資料

図4-1 研修の全体像



15

16

父親支援マニュアル 第4章の概要

■ ポピュレーションアプローチ

プログラム実施だけが父
親支援の手段ではなく、
既存事業を上手に活用す

■ 父親支援に関する研修

研修の概要

研修の前提と企画

研修の実施と評価

研修の資料

【ワークシート1】父親支援に関する課題の改善案	
機会	
対象	
方法／内容	
課題	
短期的な改善案 改善のために 必要なサポート	
長期的な改善案 改善のために 必要なサポート	

【ワークシート2】父親における困りごと(困)	
困りかけ	困りかけ
どのような時に、どのようなところで父親と出会いますか。 【特定コメント】 産後、父親と会わなければならないけれども、関係性に父親に関する情報を得られる場面でもありません。 他の参加者の意見を聞いて気づいたことがあれば書き加えてください。	ワークシート1

17

父親支援マニュアル 第5章の概要

■ 自治体における父親支援の具体的な始め方とアプローチ方法

父親支援の新規事業と支援ニーズ／父親へのニーズ調査

■ 自治体が直接父親にアプローチする方法や事業

現行の母子保健事業／イベント型支援／居場所や交流にアプローチ

■ 自治体が間接的に父親にアプローチする方法やプログラム

外部委託／地域の社会資源を活用

■ 特定ニーズのある父親へのプログラム



18

父親支援マニュアル 第5章の概要

■ 自治体における父親支援の具体的な始め方とアプローチ方法

父親支援の新規事業と支援ニーズ／父親へのニーズ調査

■ 自治体が直接父親にアプローチする方法や事業

現行の母子保健事業／イベント型支援／居場所や交流にアプローチ

■ 自治体が間接的に父親にアプローチする方法やプログラム

外部委託／地域の社会資源を活用

■ 特定ニーズのある父親へのプログラム



19

自治体の直接的なアプローチ

1) 現行の母子保健事業での実施例

- ・ 父子手帳の配布（同時に父親の健康や生活状況、労働環境などの情報収集）
- ・ 土曜開催でより多くの父親参加を目指した産前教室
- ・ 地域のNPO法人（父親への講話を担当）を巻き込んだ企画
- ・ 心理士を講師に加えた産前産後のメンタルヘルズ講座

- ✓ 現行の事業に父親支援の「何か」を加える
- ✓ 自治体職員に限らずNPO法人や地域住民の力を取り入れる

20

自治体の直接的なアプローチ

2) イベント型支援の実施例

- ・ 父親への講話と親子（父と子）の遊び（土曜開催）：おとうさんといっしょ！！
 - ①保健師による講話 ②保育士による親子遊びの紹介 ③手形アートづくり
- ・ 父と子を対象としたイベント（土日開催）：パパと遊ぼう！
 - ①消防署見学 ②ワンダーハウスで遊ぼう ③子育て支援室の見学 ④高速道路の作業所見学
- ・ 父親の健康×子どもの遊び
 - ①エアロビクス60分（子どもはおやつ作り） ②体力測定15分 ③運動に関するミニ講話

- ✓ 父親が育児参画するきっかけづくり・育児スキルの向上
- ✓ 父親と子どもで楽しめるイベント

21

自治体の直接的なアプローチ

3) 居場所・交流づくりの実施例

- ・ 父親と子の遊びを中心に父親同士の交流の機会を設ける：パパさろん
 - ①成長発達の講話 ②親子ふれあい遊び ③先輩パパを交えた父親同士の情報交換
- ・ 自治体と外部組織との協働：父親子育てマイスター事業
 - ①父親の子育てマイスター養成講座 ②父親の子育て相談
 - ③父親の子育て情報誌づくり ④父親の子育て応援イベント

- ✓ 父親のための居場所づくり 例）パパエリア、父親限定など
- ✓ 父親同士のつながりが生まれる支援

22

自治体の間接的なアプローチ

1) 外部委託実践例

- ・ 子育てパパ応援講座（連続講座）
協力：NPO法人ファザリングジャパン
 - ①笑っている父親になろう：育児を楽しむ心得など、
 - ②子どもと楽しむダンボールワークショップ
 - ③パパコミュニティを作ろう
 - ④パートナーシップ・家事ギャップ解消&シェア講座
 - ⑤働き方、環境改善を考える“部下デカラ”
 - ⑥絵本の読み聞かせ

- ✓ 事業をアウトソーシングする
- ✓ 父親が参加しやすい休日に自治体職員の確保が不要

23

自治体の間接的なアプローチ

2) 地域の社会資源を活用例

- ・ Hi Dad
NPO法人新座子育てネットワーク
 - ①父親としての意識と自覚を促す
 - ②父親の役割とその重要性の理解を助ける
 - ③父親の子育てが社会的に求められていることを知る
 - ④夫婦協働の子育てにちて具体的に考える
 - ⑤仕事と子育ての両立が男女に求められていることを知る

- ✓ 地域の父親への声掛け、参加依頼
- ✓ 父親グループに自然と流れを作ることができる

その他様々な民間の育児支援 <https://www.kengaman.com/father-support-guide/> など

24